

3 アンケート調査結果にみる高齢者等のニーズ

(1)調査目的

本調査は、令和3年度を初年度とする「第9次芦屋すこやか長寿プラン21」（芦屋市第9次高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画）を策定するにあたり、市民の生活の実態や介護保険に対する考え・意向などを把握するとともに、計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

(2)実施概要

①調査対象

調査区分	調査対象の設定
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	令和2年1月1日現在で、市内在住の65歳以上の高齢者の中から無作為抽出（要介護認定者を除く）
在宅介護実態調査	令和2年1月1日現在の要支援・要介護認定者の中から無作為抽出（施設入所者を除く）

②調査方法

郵送配布・郵送回収

③調査期間

令和2年1月31日（金）～2月14日（金）

④配布・回収状況

調査区分	配布数	回収票数	有効票数	無効票数	有効回収率
介護予防・日常生活圏域ニーズ調査	3,000	2,233	2,209	24	73.6%
在宅介護実態調査	2,000	1,362	1,179	183	59.0%

※無効票には、白票及び入院中等による回答不可の件数が含まれる。

(3)報告書の見方

①図表中の「n（number of case）」は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。

②回答結果の割合「％」は有効標本数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものであり、単一回答であっても合計値が100.0%にならない場合があります。

③図表中に以下の表示がある場合は、複数回答を依頼した質問を示しています。

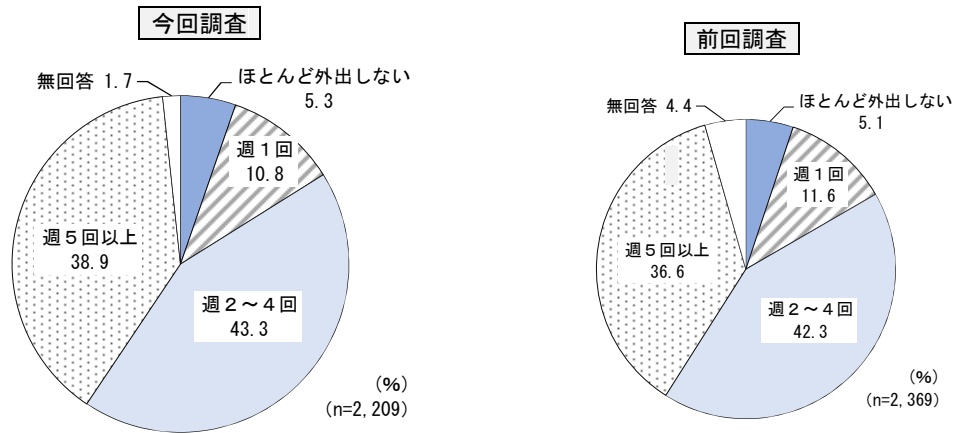
- ・ MA %（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものをすべて選択する場合
- ・ 3LA%（3 Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを3つ以内で選択する場合

④比較可能な設問については、前回調査（平成28年度）の結果を掲載しています。

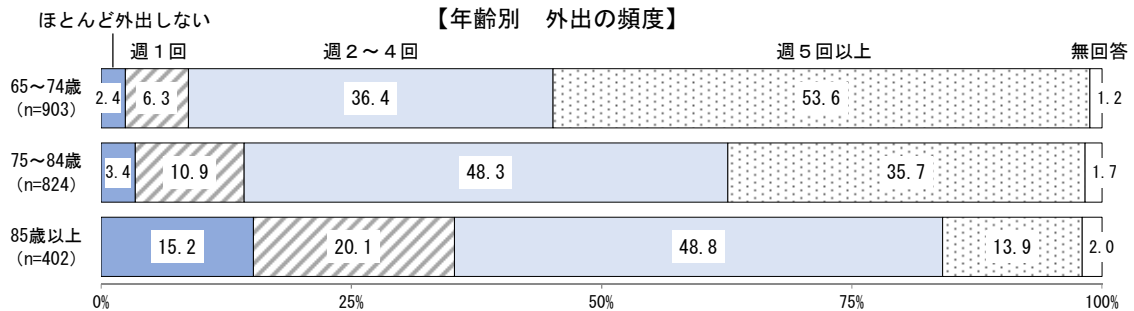
(4)『介護予防・日常生活圏域ニーズ調査』結果

①外出の頻度

週に5回以上外出する割合が38.9%に対し、週1回以下は16.1%となっています。

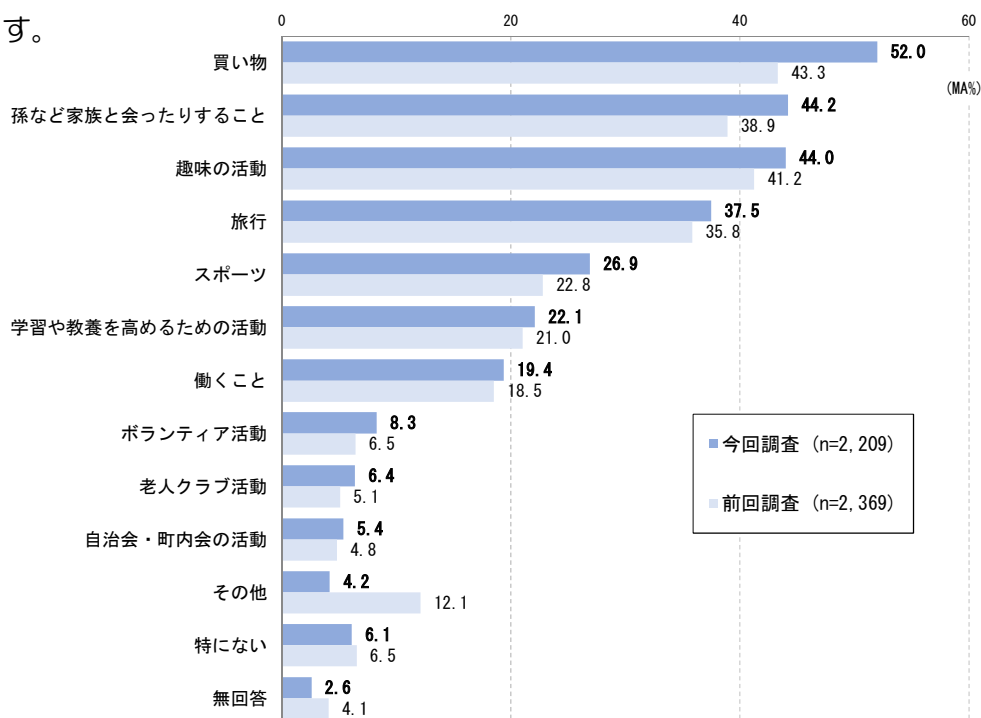


年齢別にみると、週1回以下の割合が、85歳以上で3割台（35.3%）みられます。



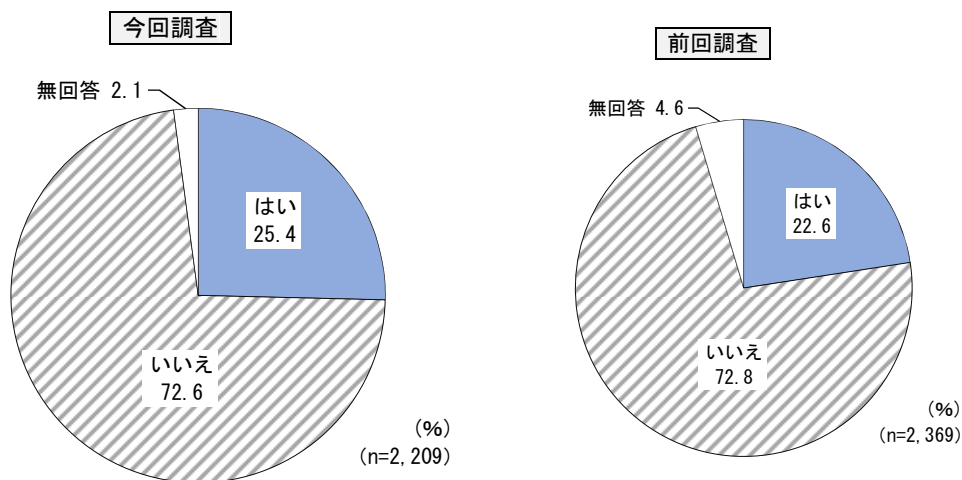
②日常生活の中での楽しみ

「買い物」が52.0%と最も多く、次いで「孫など家族と会ったりすること」が44.2%、「趣味の活動」が44.0%、「旅行」が37.5%となっており、いずれも前回調査から増加傾向にあります。

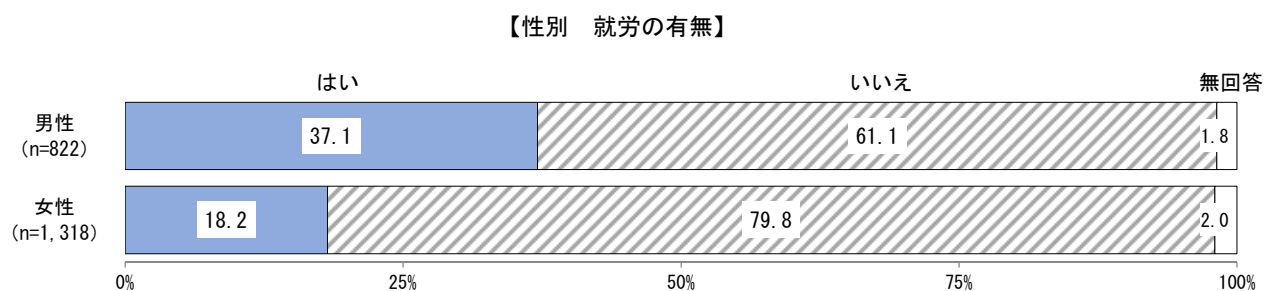


③就労状況

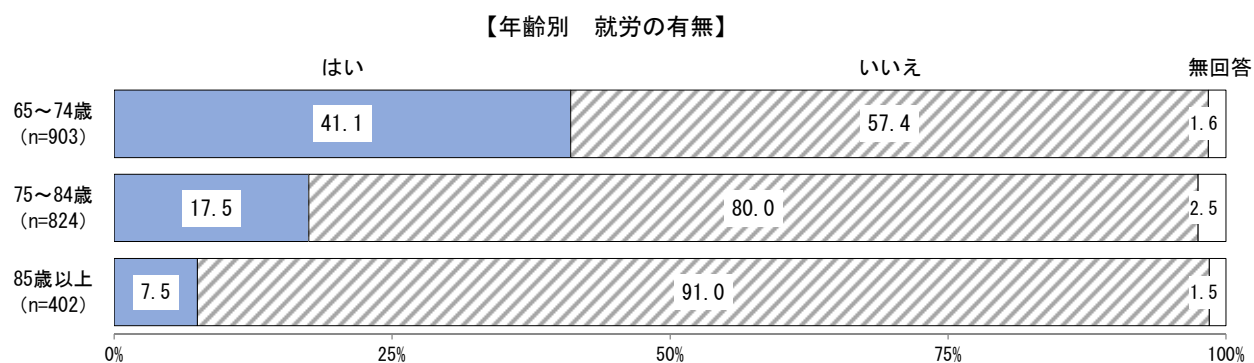
現在、就労している人の割合（「はい」）は2割台（25.4%）となっており、前回調査（22.6%）から2.8ポイント増えています。



性別にみると、就労している人の割合は、男性で37.1%、女性で18.2%となっています。

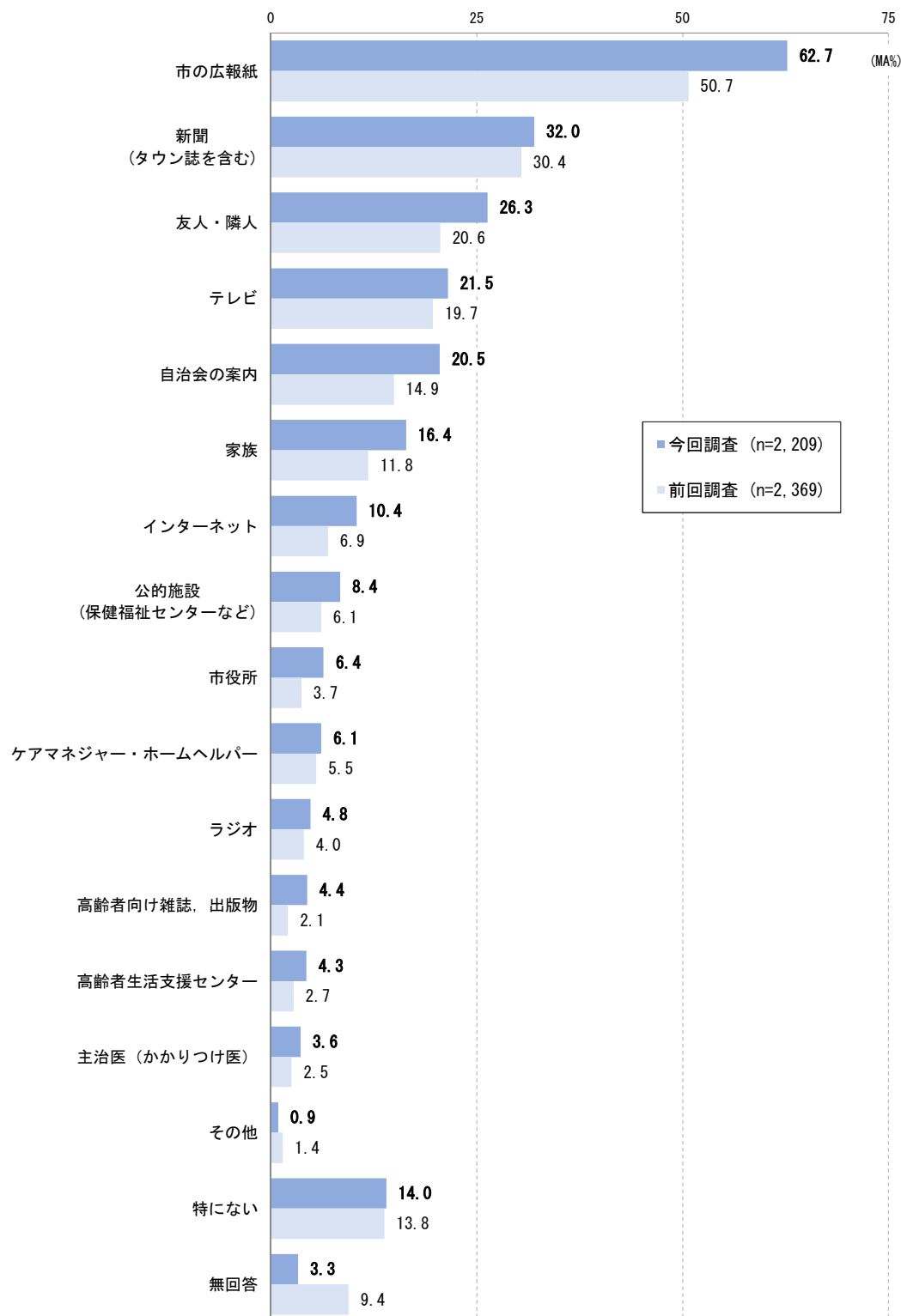


年齢別にみると、就労している人の割合は、65～74歳で4割台（41.1%）に対し、75～84歳では17.5%、85歳以上では7.5%となっています。



④高齢者向けの催し物やサービス提供に関する情報の入手先

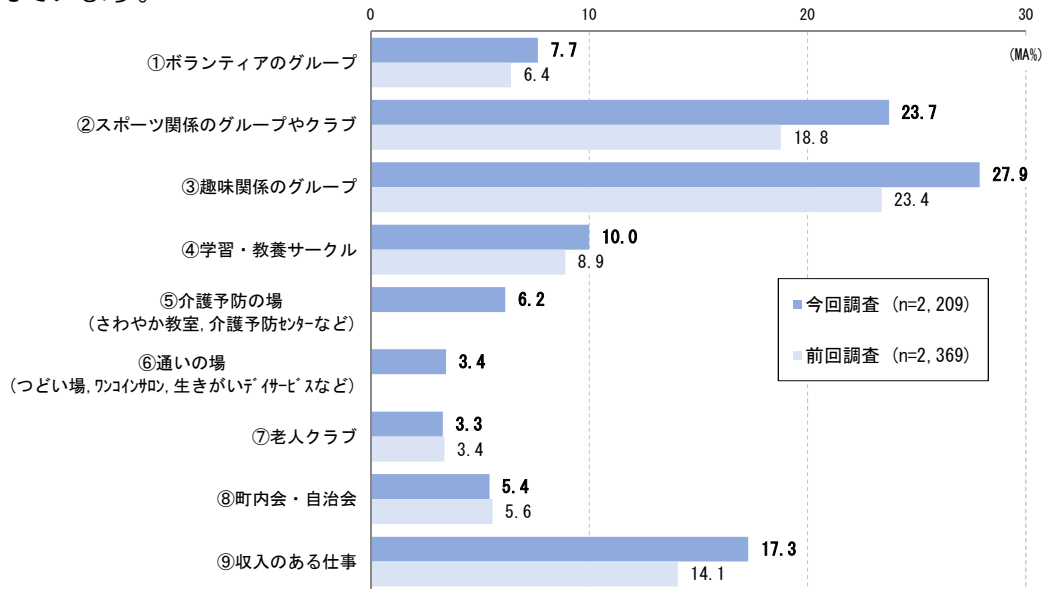
「市の広報紙」が62.7%と最も多く、前回調査(50.7%)から12ポイント増えています。また、これに続くのが、「新聞(タウン誌を含む)」で32.0%、「友人・隣人」で26.3%、「テレビ」で21.5%となっている一方、「特にない」は1割台(14.0%)みられます。



⑤地域での活動状況

1) 地域の会・グループ等への参加状況（月に1回以上参加している割合）

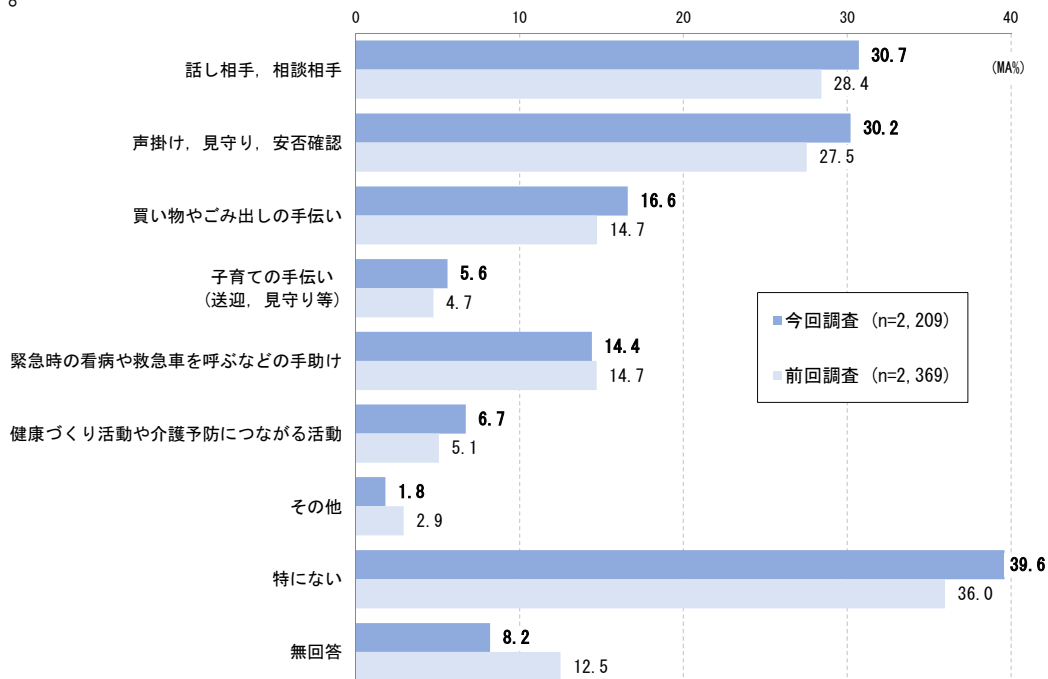
月に1回以上参加している割合としては、『③趣味関係のグループ』が27.9%、『②スポーツ関係のグループやクラブ』が23.7%と多くなっており、ともに前回調査から5ポイント前後増えています。



※『⑤介護予防の場』、『⑥通いの場』については、新規項目のため前回調査なし。

2) 地域の人に対してできる支援

「話し相手、相談相手」が30.7%、「声掛け、見守り、安否確認」が30.2%と多くなっている一方、「特にない」が39.6%みられ、前回調査（36.0%）から3.6ポイント増えています。

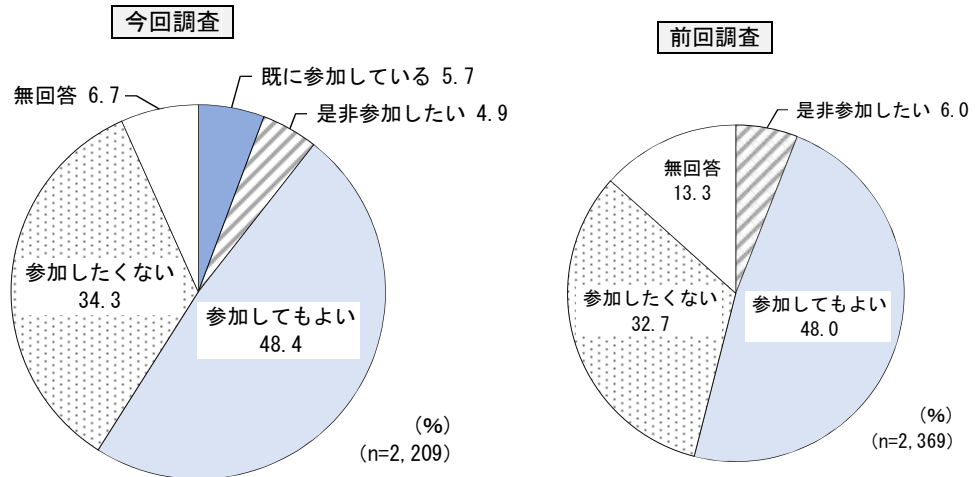


3) 地域づくりの活動への参加意向

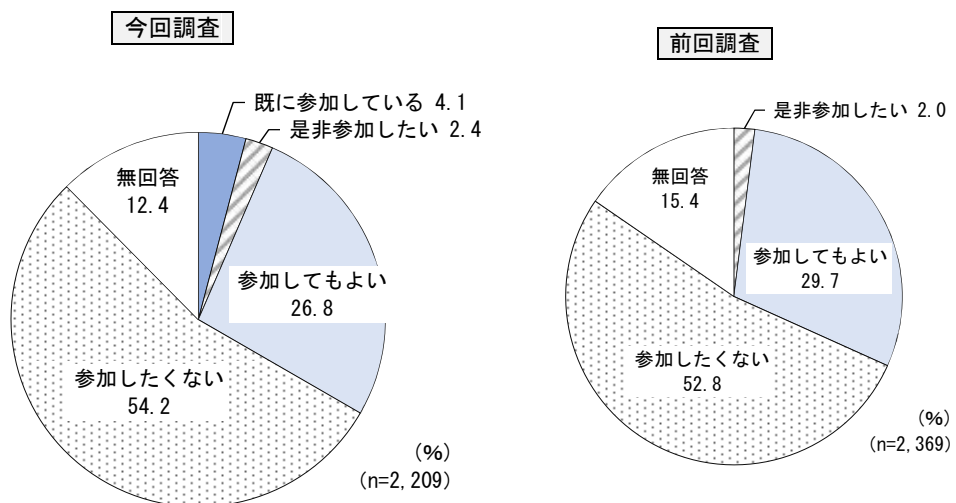
参加者としての参加意向がある割合（「既に参加している」「是非参加したい」「参加してもよい」の計）が約6割（59.0%）を占めている一方、企画・運営（お世話役）としては3割台（33.3%）となっています。

※前回調査では「既に参加している」の選択肢なし。

<参加者としての参加>

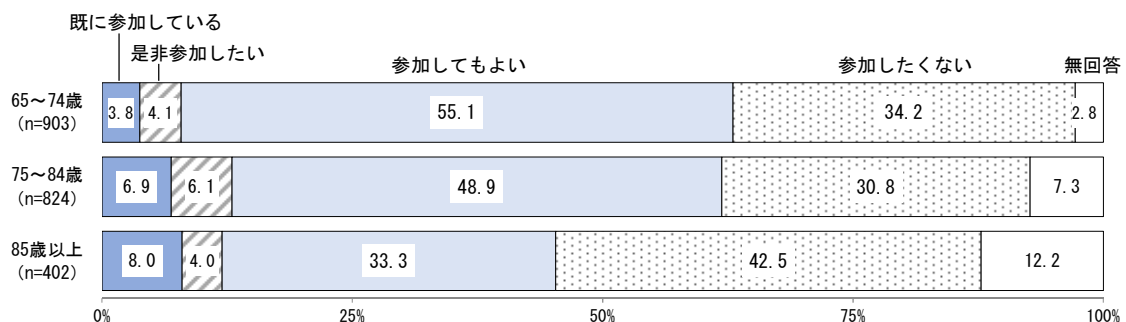


<企画・運営としての参加>

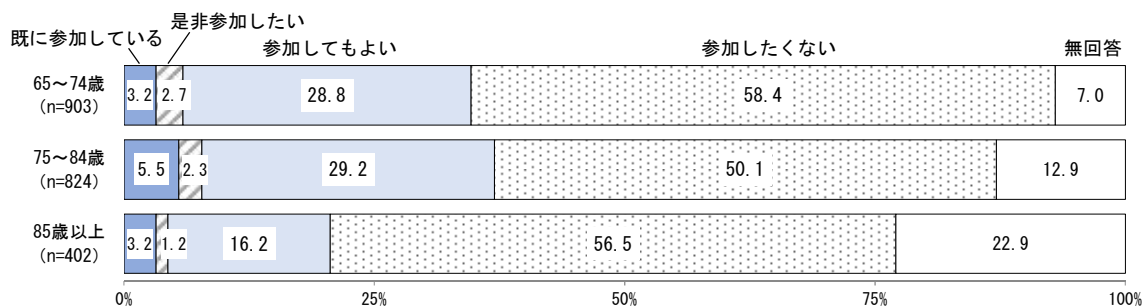


年齢別にみると、参加者としての参加意向がある割合は、65～84歳では6割台を占めるのに対し、85歳以上では4割台となっている一方、企画・運営としては、65～84歳で3割台に対し、85歳以上では約2割となっています。

【年齢別 地域づくりの活動への参加意向『参加者としての参加』】



【年齢別 地域づくりの活動への参加意向『企画・運営としての参加』】



コラム：「ひとり一役活動」について

「ひとり一役活動」は、市民の皆さんの「できること・したいこと」を通じ、地域での支え合いの体制づくりをすすめ、活動者自身の社会参加活動を通じた健康づくり・介護予防を推進することを目的とした事業です。介護保険施設等や高齢者の居宅でのボランティア活動を行うと、活動実績に応じてポイントが付与され換金することができます。市民の皆さんの「できること・したいこと」を自分のペースで活動していただけます。

活動写真



(将棋の相手)

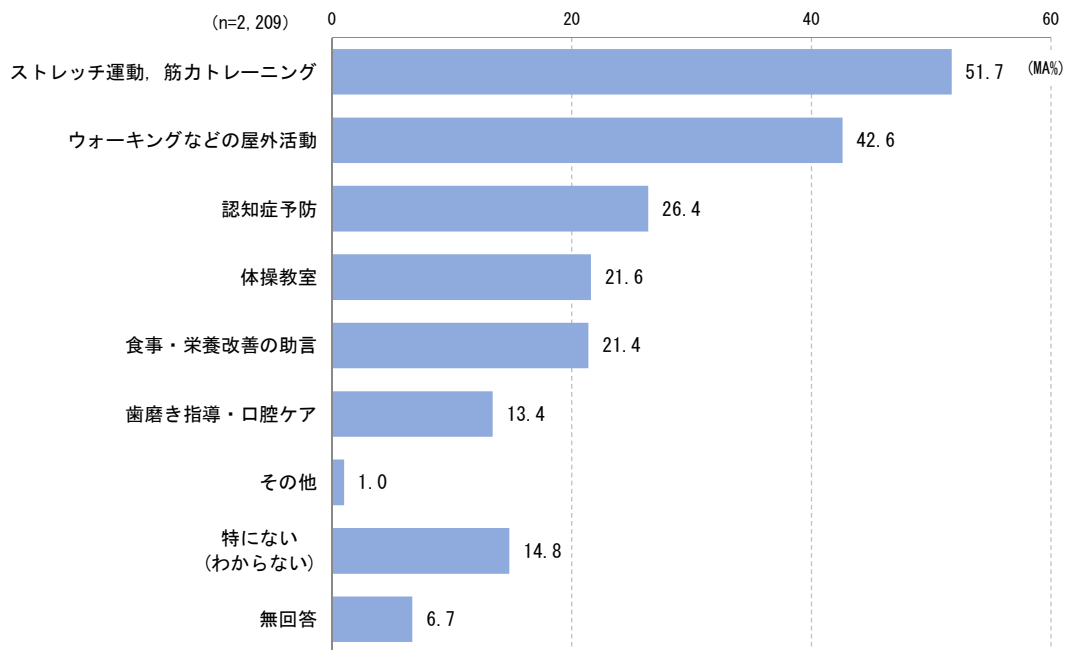


(植栽の手入れ)

⑥介護予防のための取組に対する希望

1) 介護予防のために取り組みたいメニュー

「ストレッチ運動、筋力トレーニング」が51.7%と最も多く、次いで「ウォーキングなどの屋外運動」が42.6%、「認知症予防」が26.4%となっています。



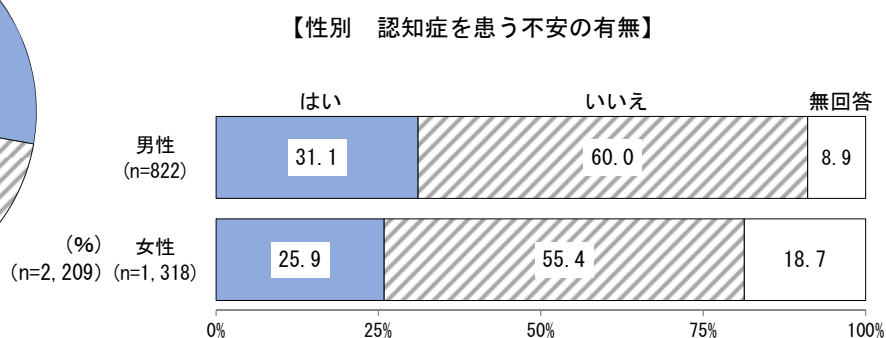
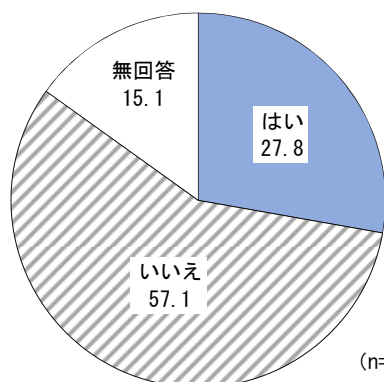
介護予防教室 活動写真



⑦認知症に対する認識

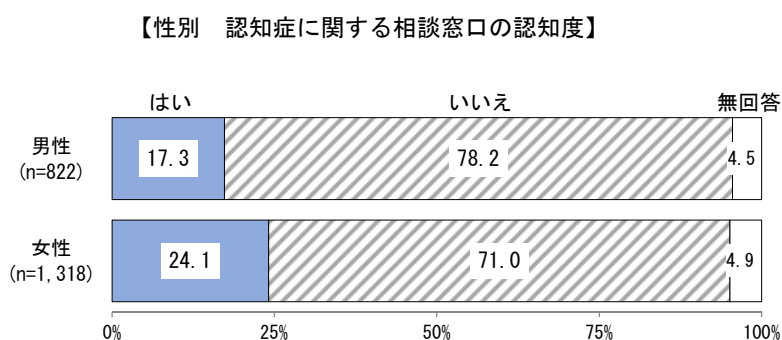
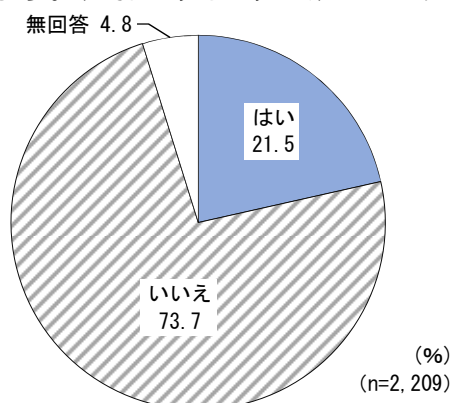
1) 認知症になる可能性に対する認識

自身が認知症になる（患う）と思うという割合（「はい」）は、全体の3割近く（27.8%）となっています。性別にみると、女性で25.9%に対し、男性では31.1%と高くなっています。



2) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っているという割合（「はい」）は、2割台（21.5%）となっています。性別にみると、女性で24.1%に対し、男性では17.3%と低くなっています。

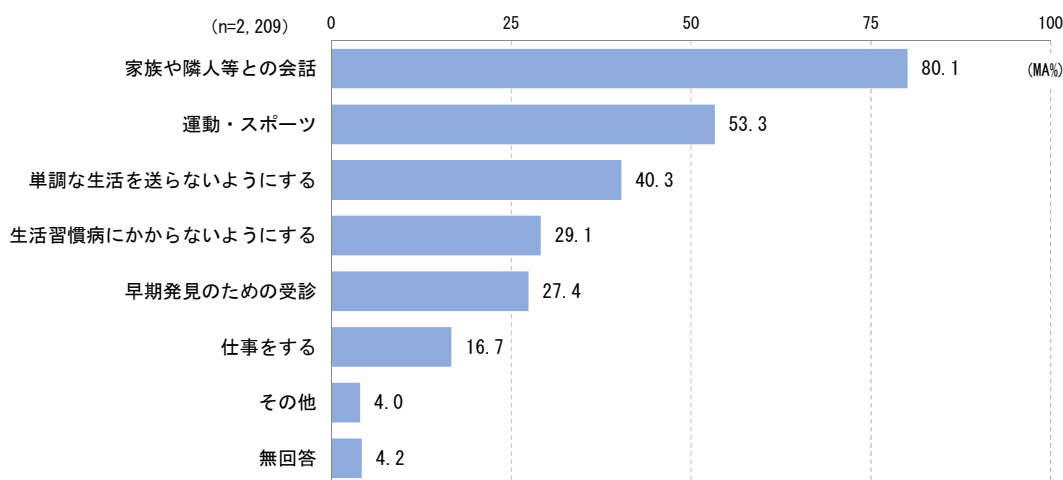


市内の認知症相談センター

名称	住所	電話番号
東山手高齢者生活支援センター	朝日ヶ丘町6-9	32-7552
西山手高齢者生活支援センター	山芦屋町9-18 (アクティブライフ山芦屋内)	25-7681
精道高齢者生活支援センター	呉川町14-9 (保健福祉センター内)	34-6711
潮見高齢者生活支援センター	潮見町31-1 (あしや喜楽苑内)	34-4165

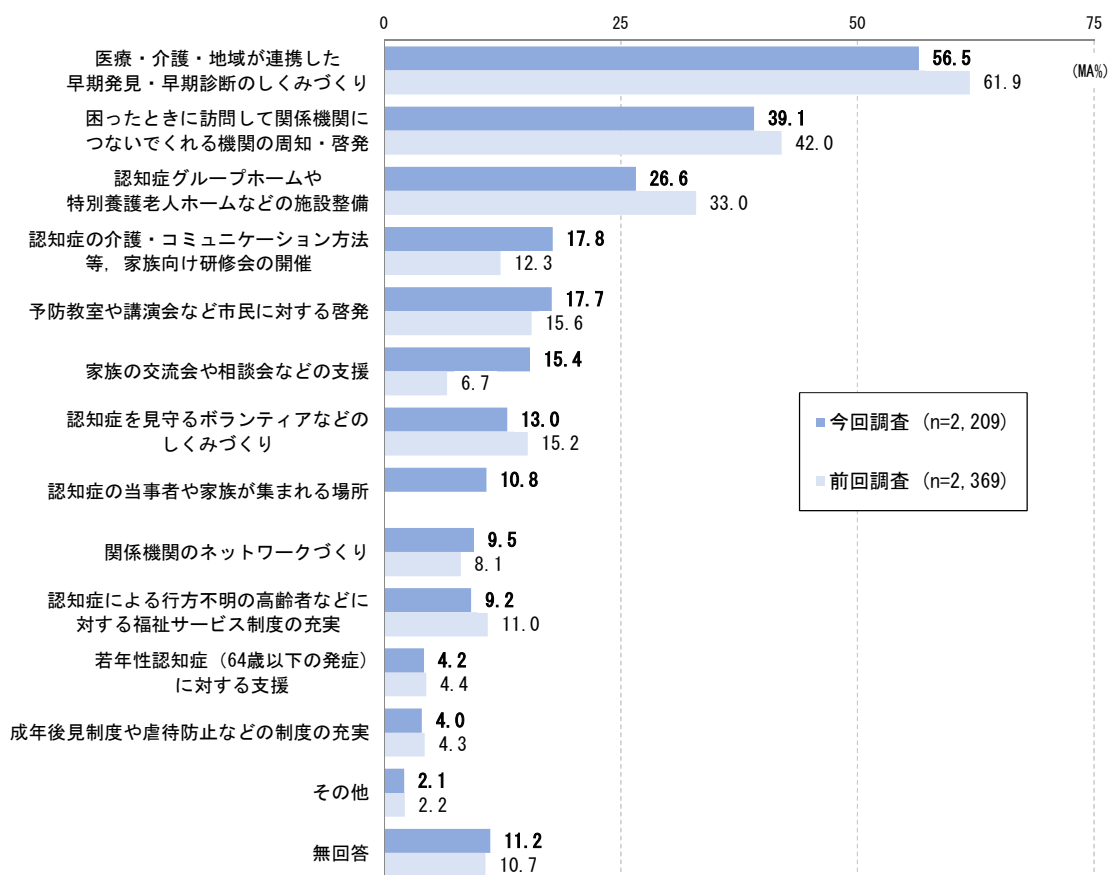
3) 認知症予防に重要だと思うこと

認知症予防に重要だと思うことは、「生活習慣病にかからないようにする」が29.1%、「早期発見のための受診」が27.4%と低くなっています。



4) 認知症の人への支援で必要と思うこと

「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が56.5%と最も多く、次いで「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」が39.1%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」が26.6%となっているものの、いずれも前回調査から5ポイント前後減っています。

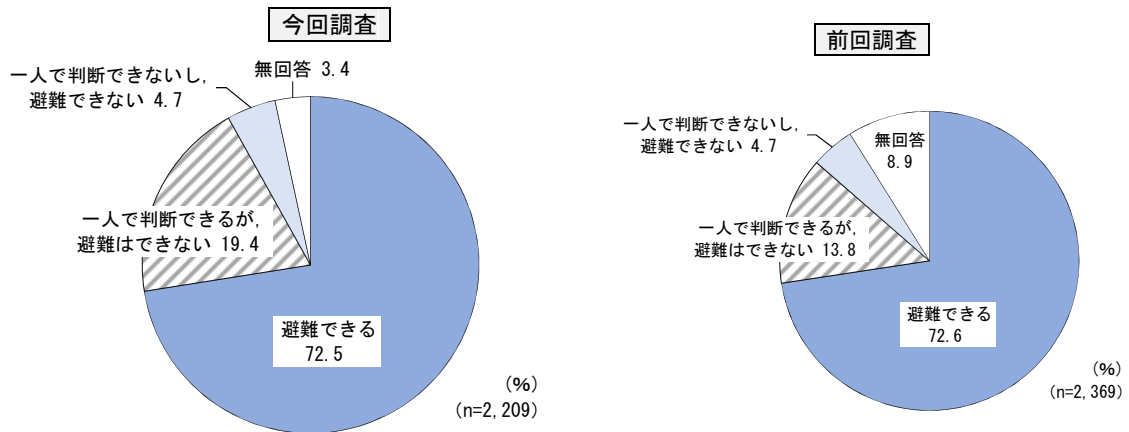


※「認知症の当事者や家族が集まれる場所」は新規項目のため前回調査なし。

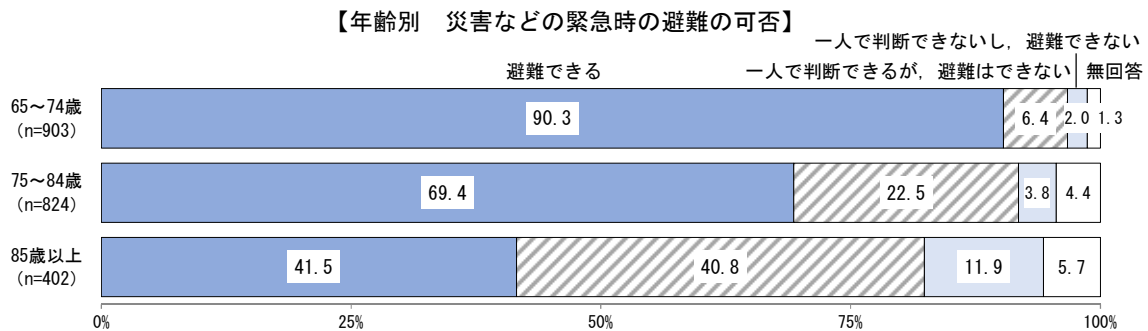
⑧災害時の対応

1) 災害などの緊急時の避難の可否

一人で避難することができない割合（「一人で判断できるが、避難はできない」「一人で判断できないし、避難できない」の計）は2割台（24.1%）みられ、前回調査（18.5%）から5.6ポイント増えています。

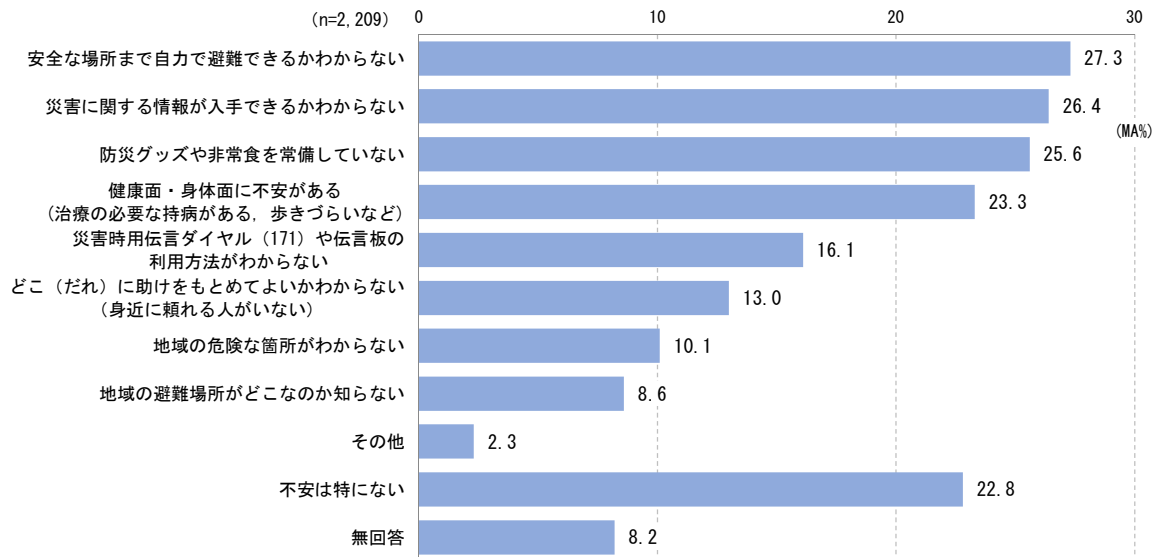


年齢別にみると、避難することができない割合が、65～74歳で8.4%、75～84歳で26.2%に対し、85歳以上では半数以上（52.7%）を占めています。



2) 災害時に対し不安に思うこと

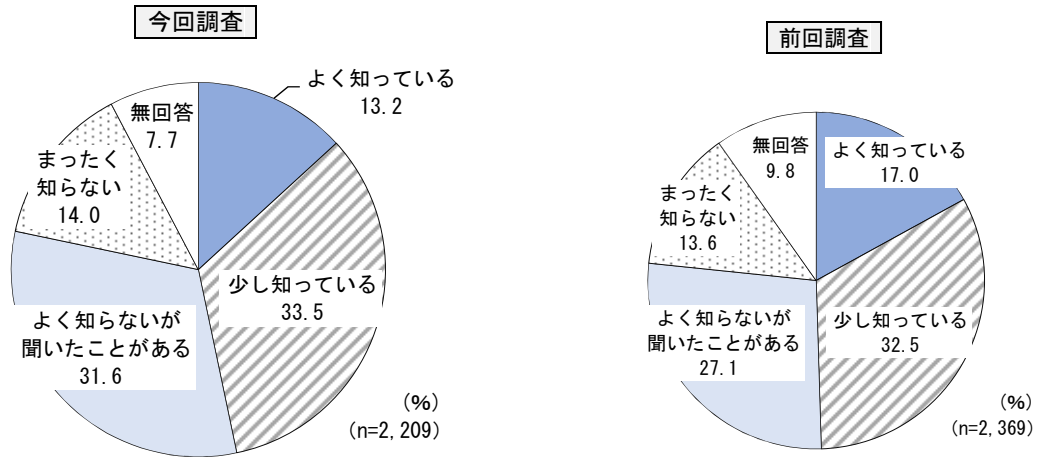
「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が27.3%と最も多く、次いで「災害に関する情報が入手できるかわからない」が26.4%、「防災グッズや非常食を常備していない」が25.6%となっています。



⑨権利擁護の取り組み

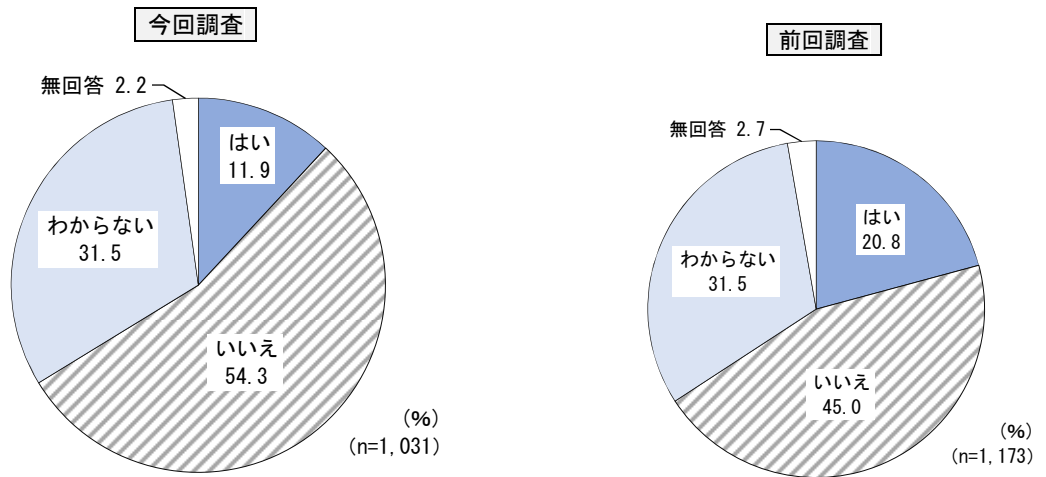
1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度について、「少し知っている」が33.5%と最も多く、「よく知っている」(13.2%)を合わせると、知っているという割合は4割台(46.7%)となっており、前回調査(49.5%)から2.8ポイント減っています。



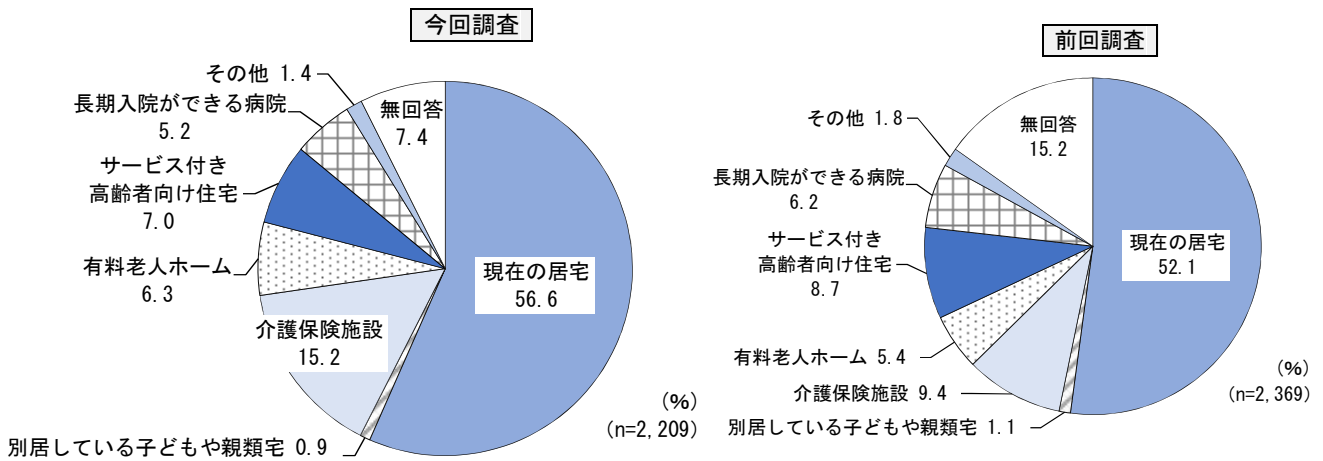
2) 利用意向

成年後見制度について知っている人のうち、今後利用したいという人の割合(「はい」)は1割台(11.9%)にとどまっており、前回調査(20.8%)からも8.9ポイント減っています。



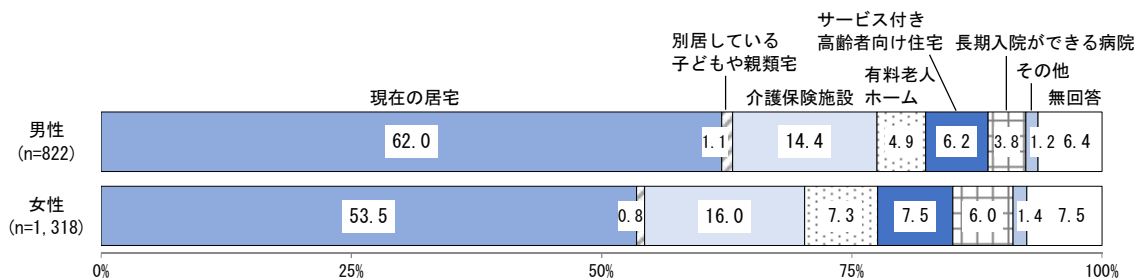
⑩介護が必要になった場合に希望する住まい

「現在の居宅」が半数以上（56.6%）を占めており、前回調査（52.1%）から4.5ポイント増えています。また、これに続くのが、「介護保険施設」で15.2%となっています。



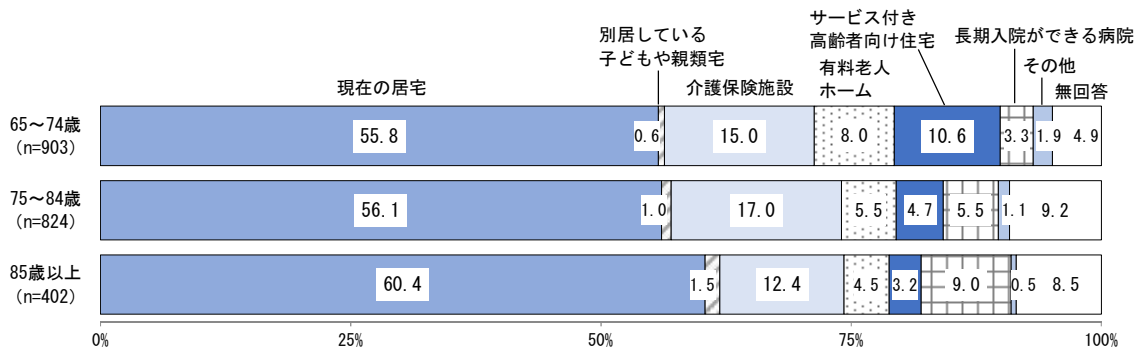
性別にみると、男女ともに「現在の居宅」が半数以上を占めているものの、女性で53.5%に対し、男性では62.0%と差がみられ、施設や病院等への入所・入院を希望する割合は女性のほうが高くなっています。

【性別 介護が必要になった場合に希望する住まい】



年齢別にみても、いずれの年齢層も「現在の居宅」が半数以上を占めており、85歳以上で60.4%と最も高い。また、「サービス付き高齢者向け住宅」が65~74歳で10.6%、「長期入院ができる病院」が85歳以上で9.0%と、それぞれ他の年齢層に比べて特に高い割合となっています。

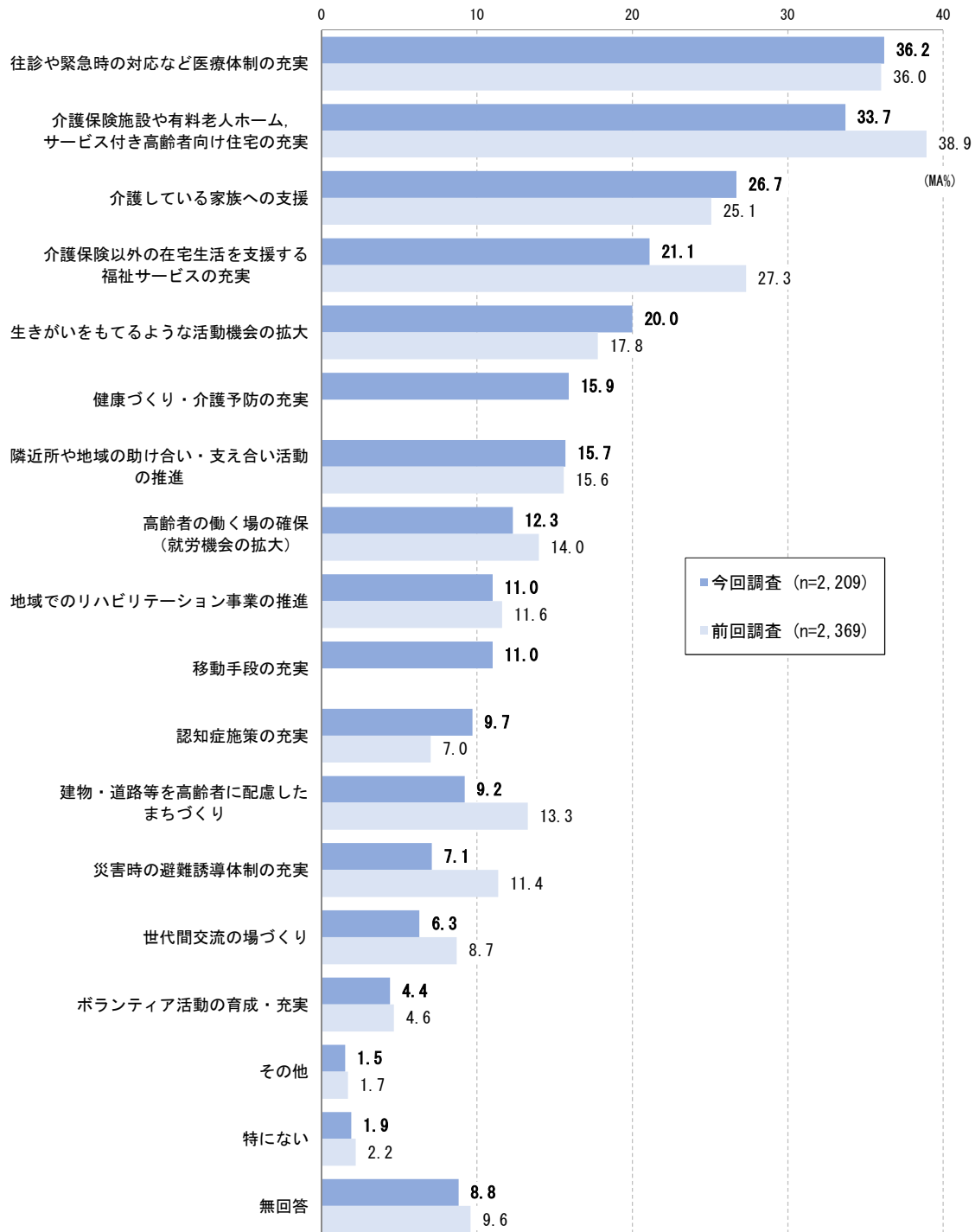
【年齢別 介護が必要になった場合に希望する住まい】



⑪高齢者への支援として必要と思うこと

「往診や緊急時の対応など医療体制の充実」が36.2%と最も多く、次いで「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」が33.7%、「介護している家族への支援」が26.7%、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」が21.1%となっています。

前回調査と比べると、「介護保険以外の在宅生活を支援する福祉サービスの充実」（前回27.3%）が6.2ポイント、「介護保険施設や有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の充実」（前回38.9%）が5.2ポイント、それぞれ減っています。

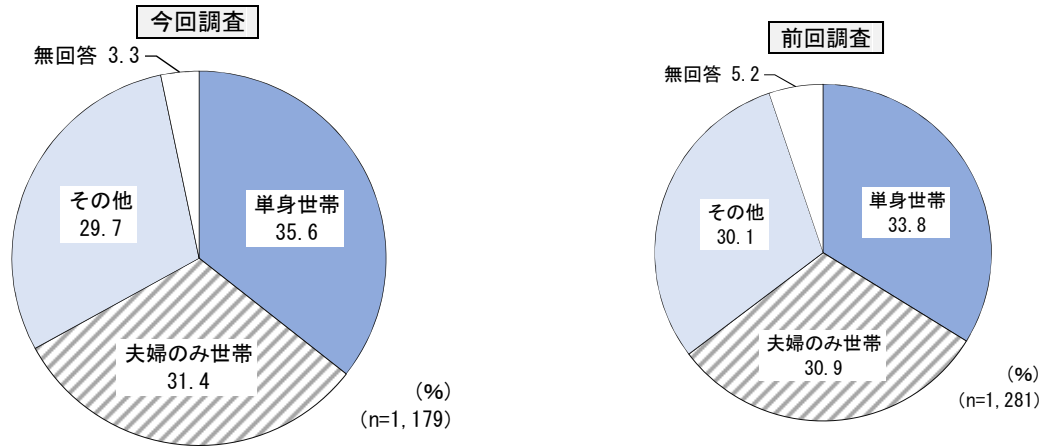


※「健康づくり・介護予防の充実」、「移動手段の充実」は前回調査なし。

(4)『在宅介護実態調査』結果

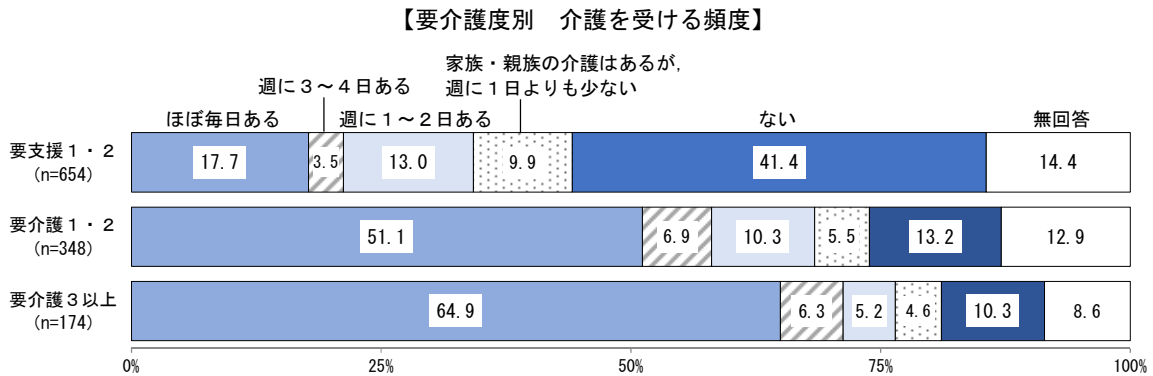
①世帯類型

「単身世帯」が35.6%と最も多く、前回調査（33.8%）から1.8ポイント増えています。また、「夫婦のみ世帯」が31.4%、「その他」が29.7%となっています。



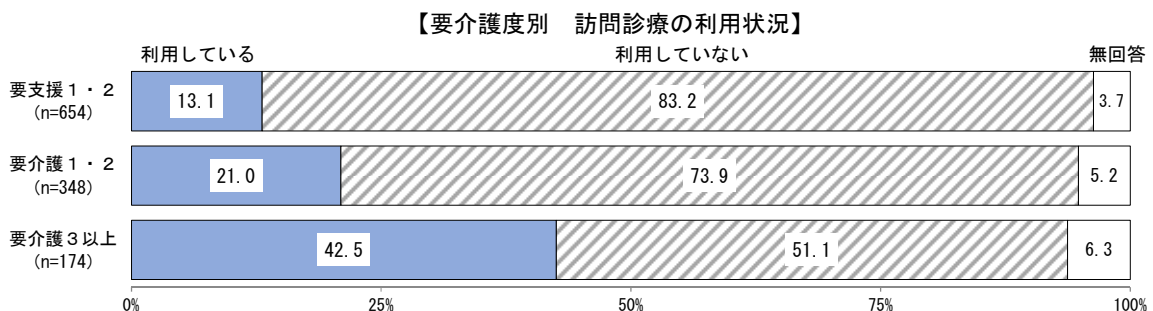
②介護を受ける頻度

家族や親族から介護を受けている割合は6割弱（58.5%）となっており、要介護度別にみると、「ほぼ毎日ある」が要支援1・2で17.7%に対し、要介護者では半数以上を占めており、要介護1・2で51.1%、要介護3以上で64.9%となっています。



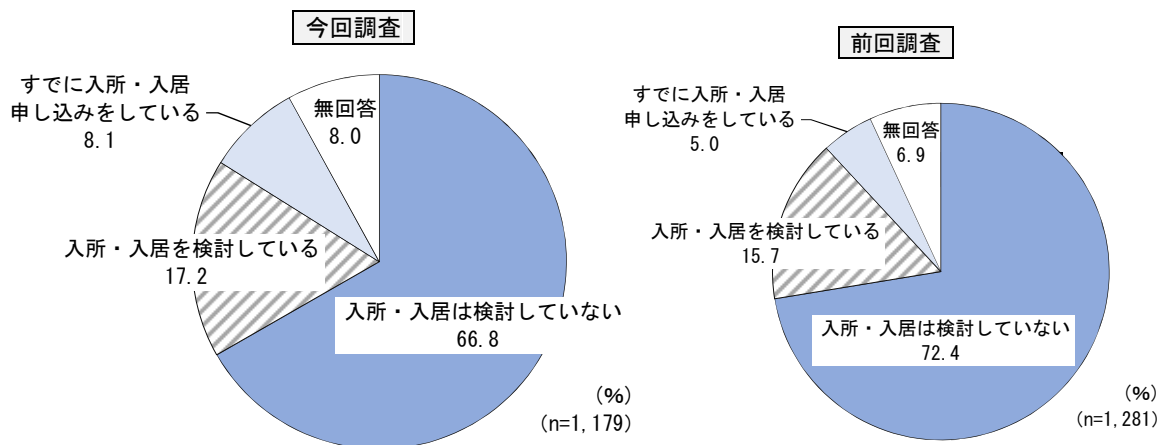
③訪問診療の利用状況

訪問診療を利用している割合は約2割（19.8%）となっており、要介護度別にみると、利用している割合が、要支援1・2で13.1%、要介護1・2で21.0%に対し、要介護3以上では4割台（42.5%）を占めています。



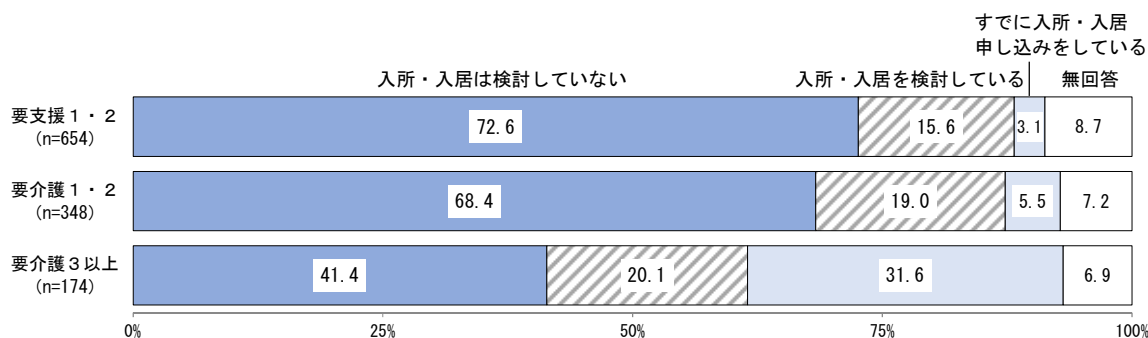
④施設等への入所・入居の検討状況

入所・入居意向がある割合（「入所・入居を検討している」「すでに入所・入居申し込みをしている」の計）は2割台（25.3%）となっており、前回調査（20.7%）から4.6ポイント増えています。



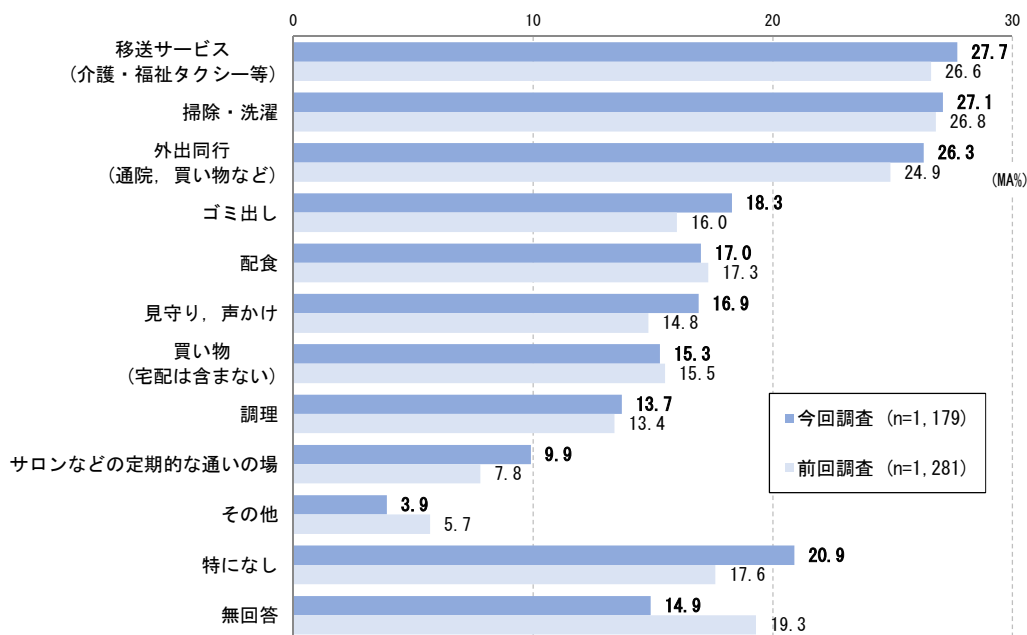
要介護度別にみると、入所・入居意向がある割合が、要支援1・2で18.7%、要介護1・2で24.5%に対し、要介護3以上では半数以上（51.7%）を占めており、「すでに入所・入居申し込みをしている」が31.6%と高くなっています。

【要介護度別 施設等への入所・入居の検討状況】

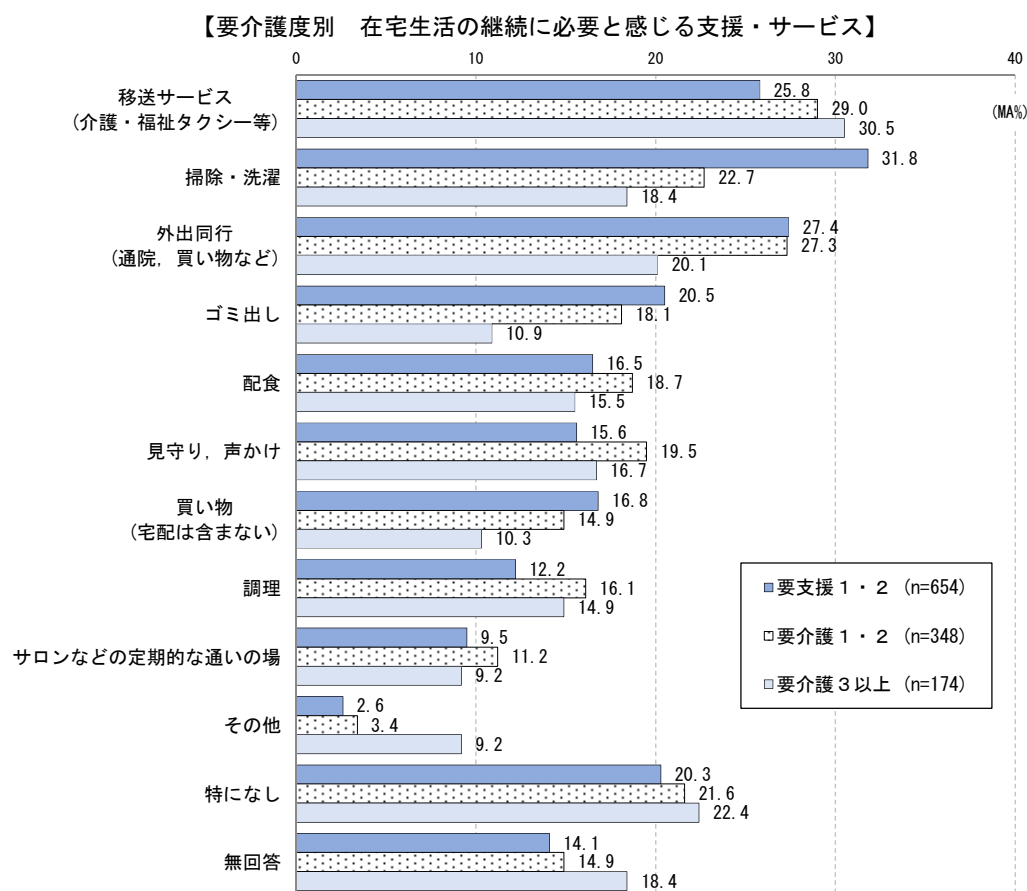


⑤在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス

「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が27.7%、「掃除・洗濯」が27.1%、「外出同行（通院、買い物など）」が26.3%と多くなっており、前回調査と同じ傾向となっています。

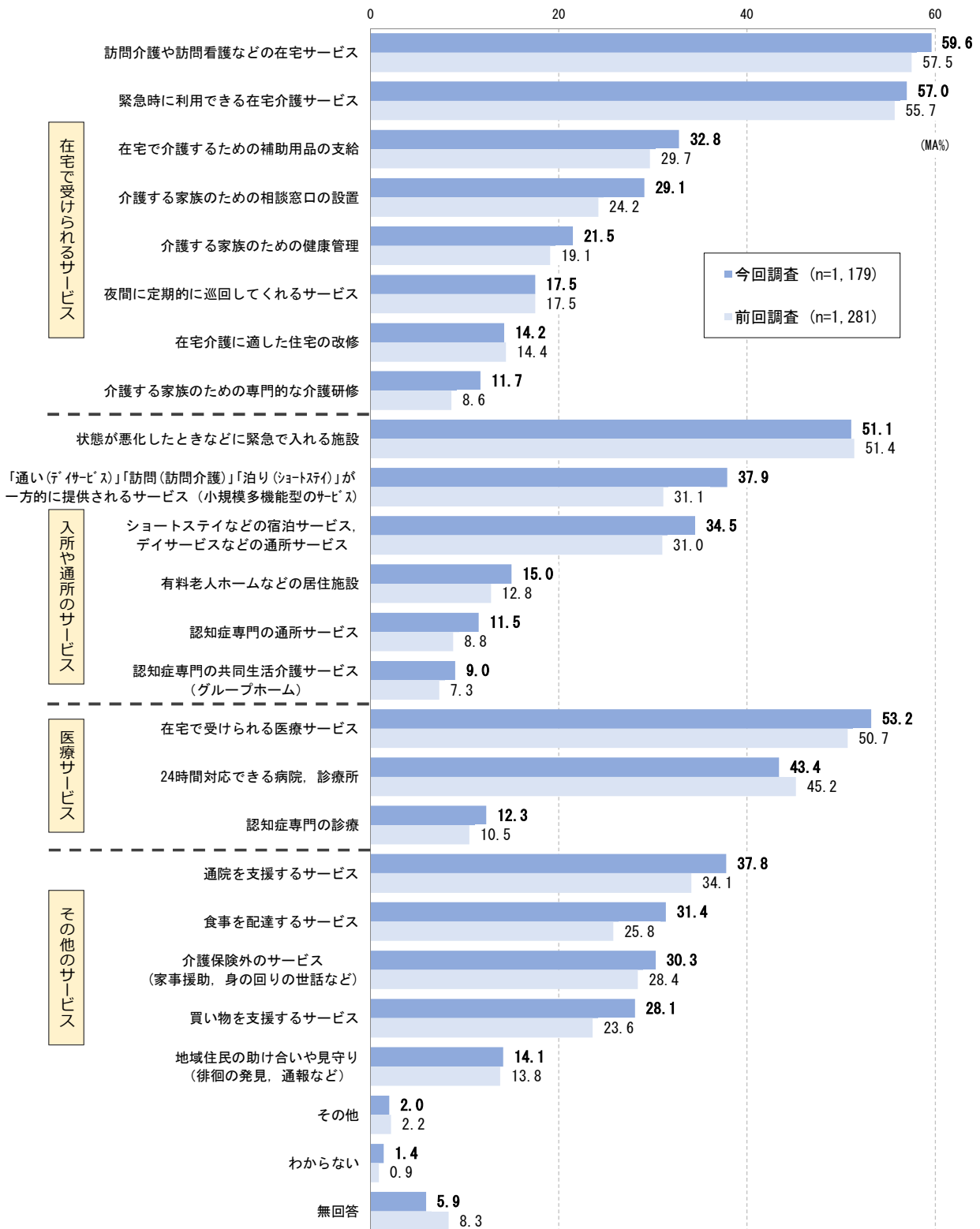


要介護度別にみると、「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が要介護1・2で29.0%、要介護3以上で30.5%と、ともに最も多くなっているのに対し、要支援1・2では「掃除・洗濯」が31.8%と最も多くなっています。



⑥身の回りのことができなくなったときに必要なサービス

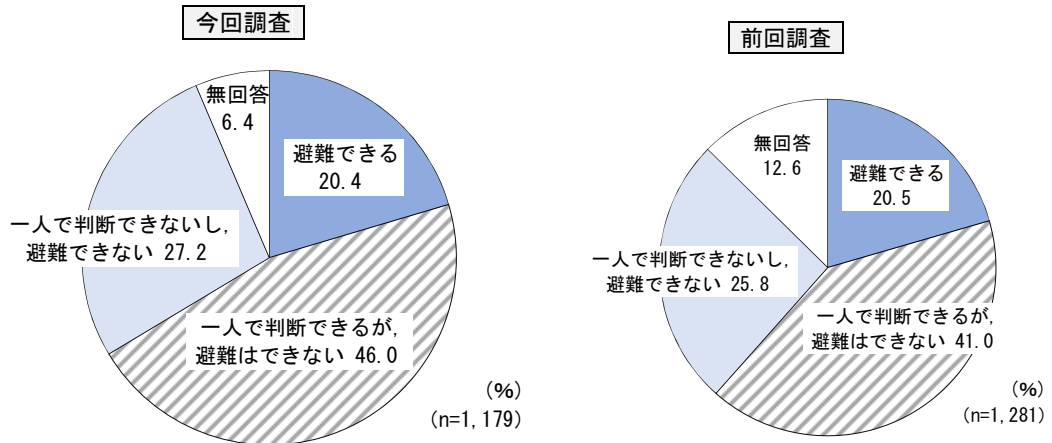
「訪問介護や訪問看護などの在宅サービス」が59.6%と最も多く、次いで「緊急時に利用できる在宅介護サービス」が57.0%、「在宅で受けられる医療サービス」が53.2%、「状態が悪化したときなどに緊急で入れる施設」が51.1%となっており、前回調査と同じ傾向となっています。



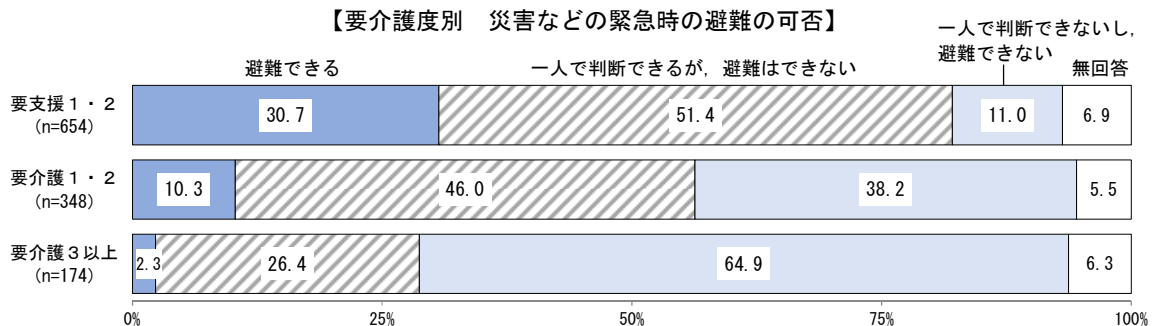
⑦災害時の対応

1) 災害などの緊急時の避難の可否

一人で避難することができない割合（「一人で判断できるが、避難はできない」「一人で判断できないし、避難できない」の計）は7割台（73.2%）を占めており、前回調査（66.8%）から6.4ポイント増えています。

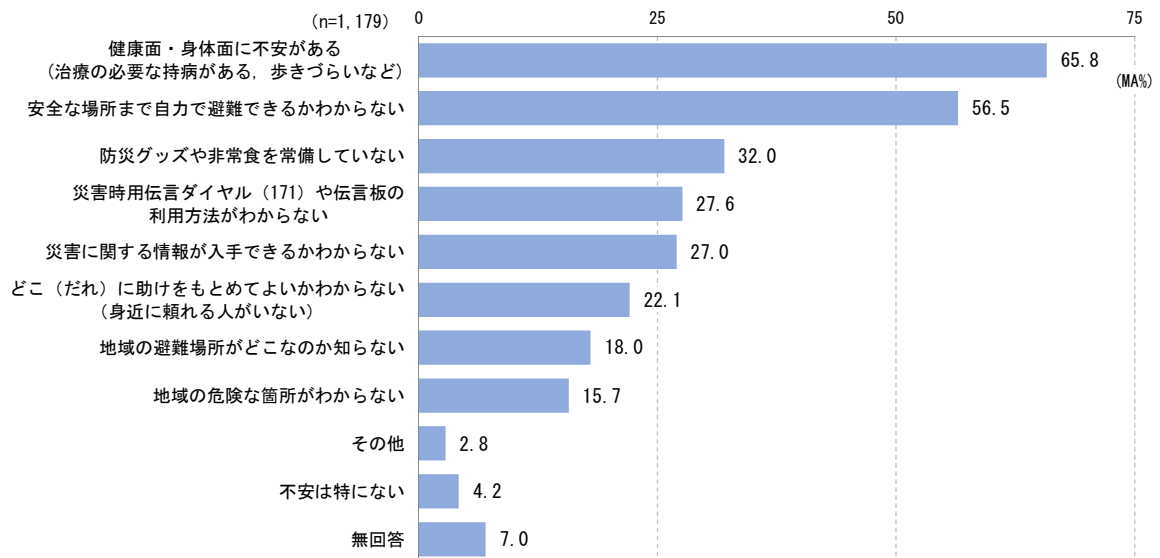


要介護度別にみると、避難することができない割合が、要支援1・2で62.4%に対し、要介護1・2では84.2%、要介護3以上では91.3%と高くなっています。



2) 災害時に対し不安に思うこと

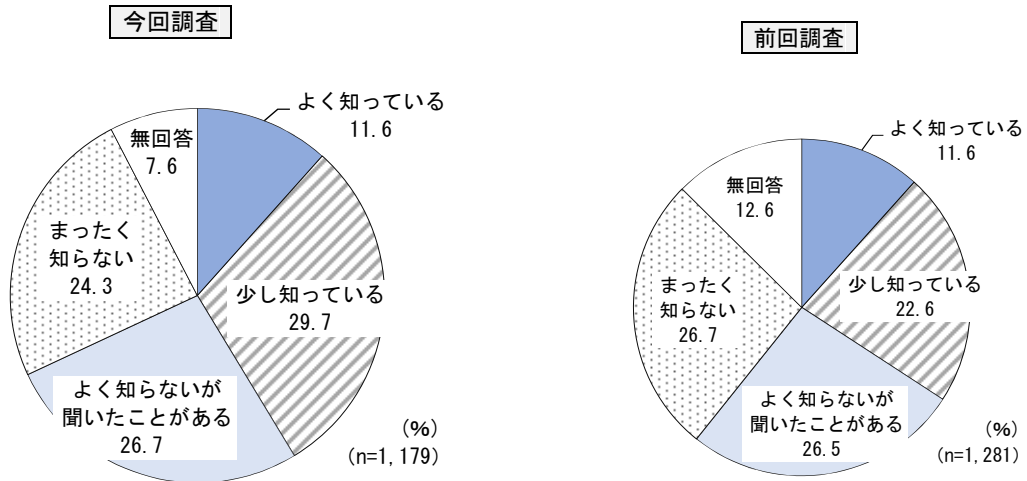
「健康面・身体面に不安がある」が65.8%と最も多く、次いで「安全な場所まで自力で避難できるかわからない」が56.5%となっています。



⑧権利擁護の取り組み

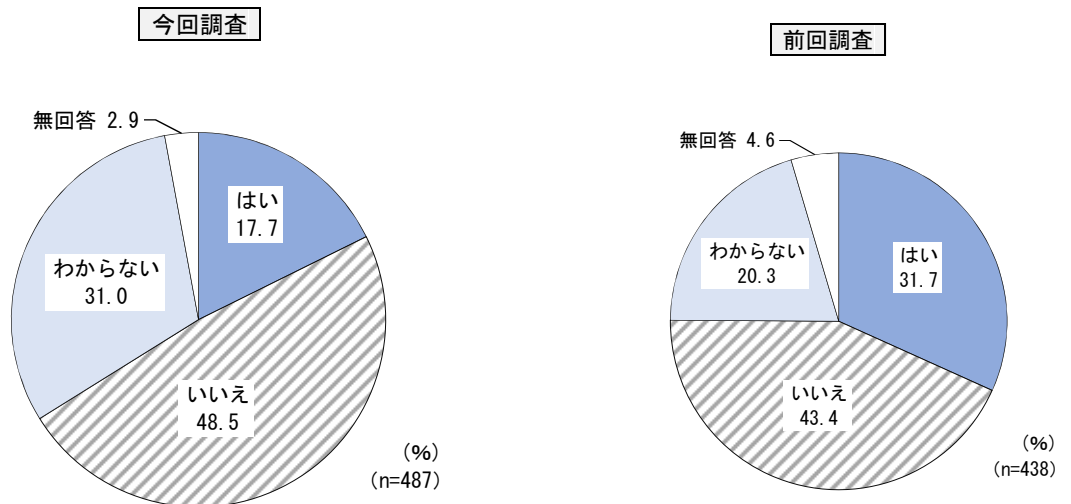
1) 成年後見制度の認知度

成年後見制度について、「少し知っている」が29.7%と最も多く、「よく知っている」(11.6%)を合わせると、知っているという割合は4割台(41.3%)となっており、前回調査(34.2%)から7.1ポイント増えています。



2) 利用意向

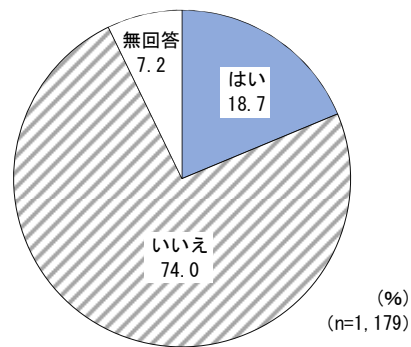
成年後見制度について知っている人のうち、今後利用したいという人の割合(「はい」)は1割台(17.7%)にとどまっており、前回調査(31.7%)からも14.0ポイント減っています。



⑨認知症に対する認識

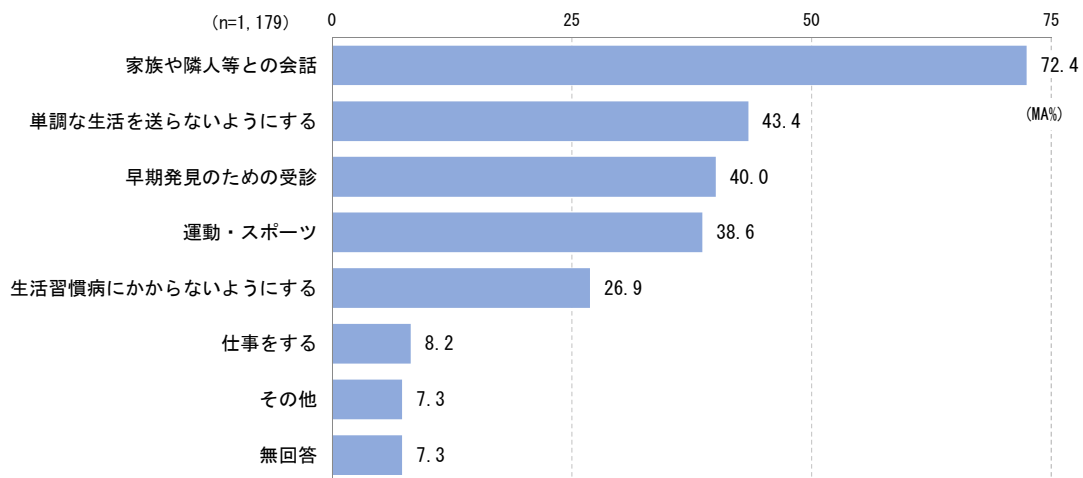
1) 認知症に関する相談窓口の認知度

認知症に関する相談窓口を知っているという割合（「はい」）は18.7%となっています。



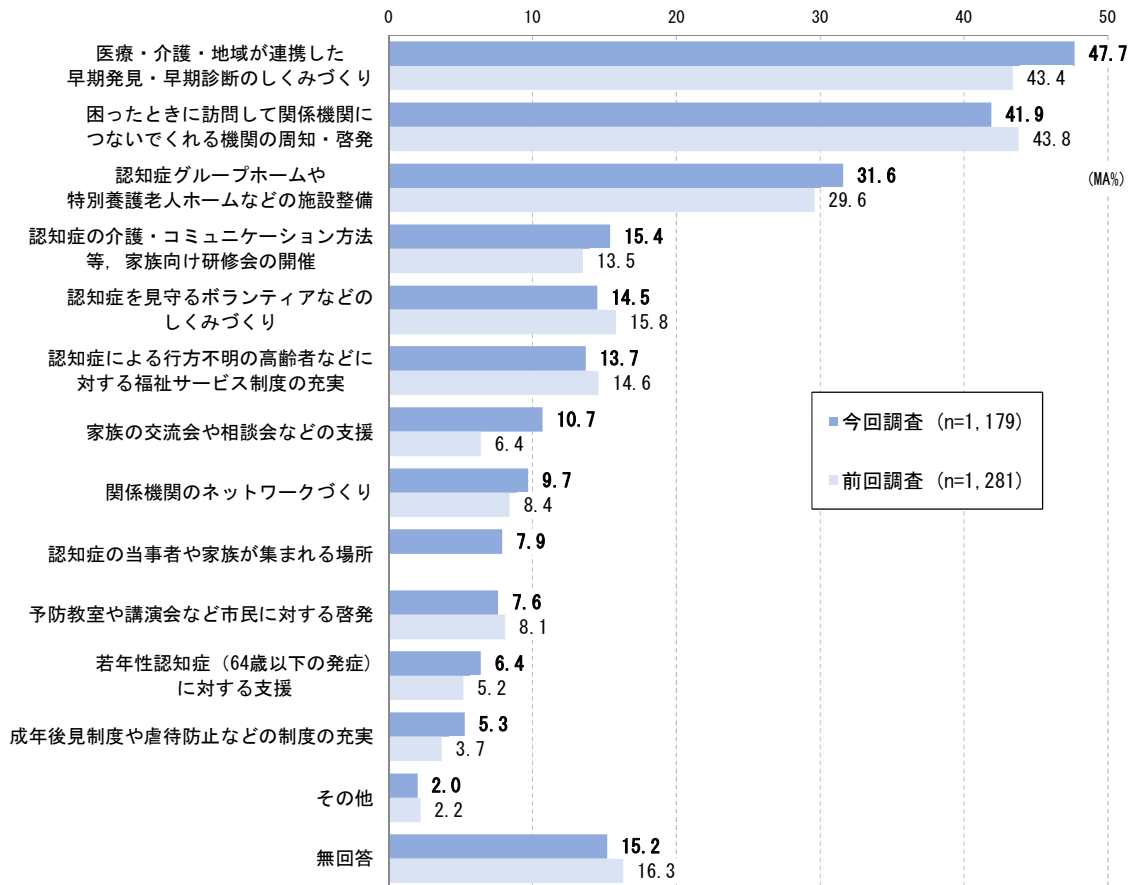
2) 認知症予防に重要だと思うこと

認知症予防に重要だと思うことは、「生活習慣病にかからないようにする」が26.9%と低くなっています。



3) 認知症の人への支援で必要と思うこと

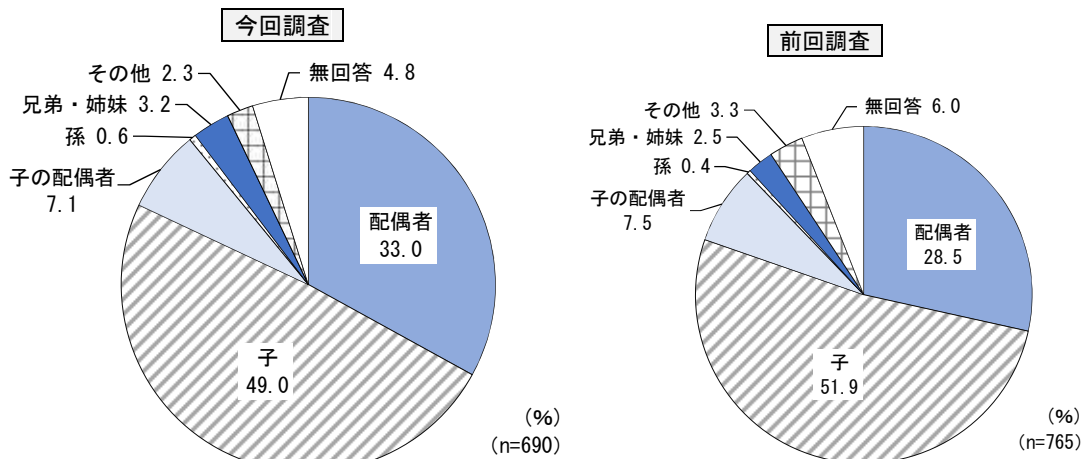
「医療・介護・地域が連携した早期発見・早期診断のしくみづくり」が47.7%と最も多く、前回調査（43.4%）から4.3ポイント増えています。また、これに続くのが、「困ったときに訪問して関係機関につないでくれる機関の周知・啓発」で41.9%、「認知症グループホームや特別養護老人ホームなどの施設整備」で31.6%となっています。



⑩主な介護者の状況（※家族や親族から介護を受けていると回答した人）

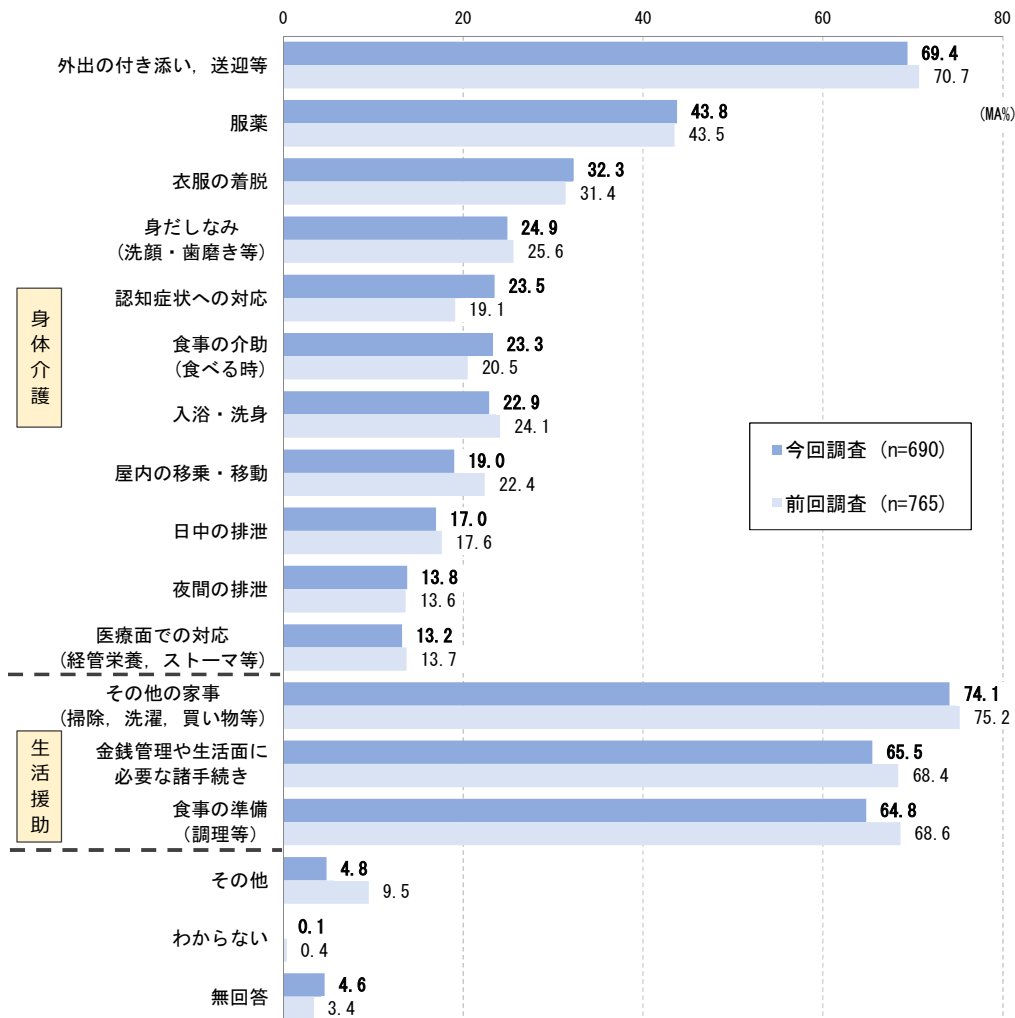
1) 主な介護者の続柄

子どもから主に介護を受けている割合（「子」「子の配偶者」の計）が半数以上（56.1%）を占めており、次いで「配偶者」が33.0%となっています。



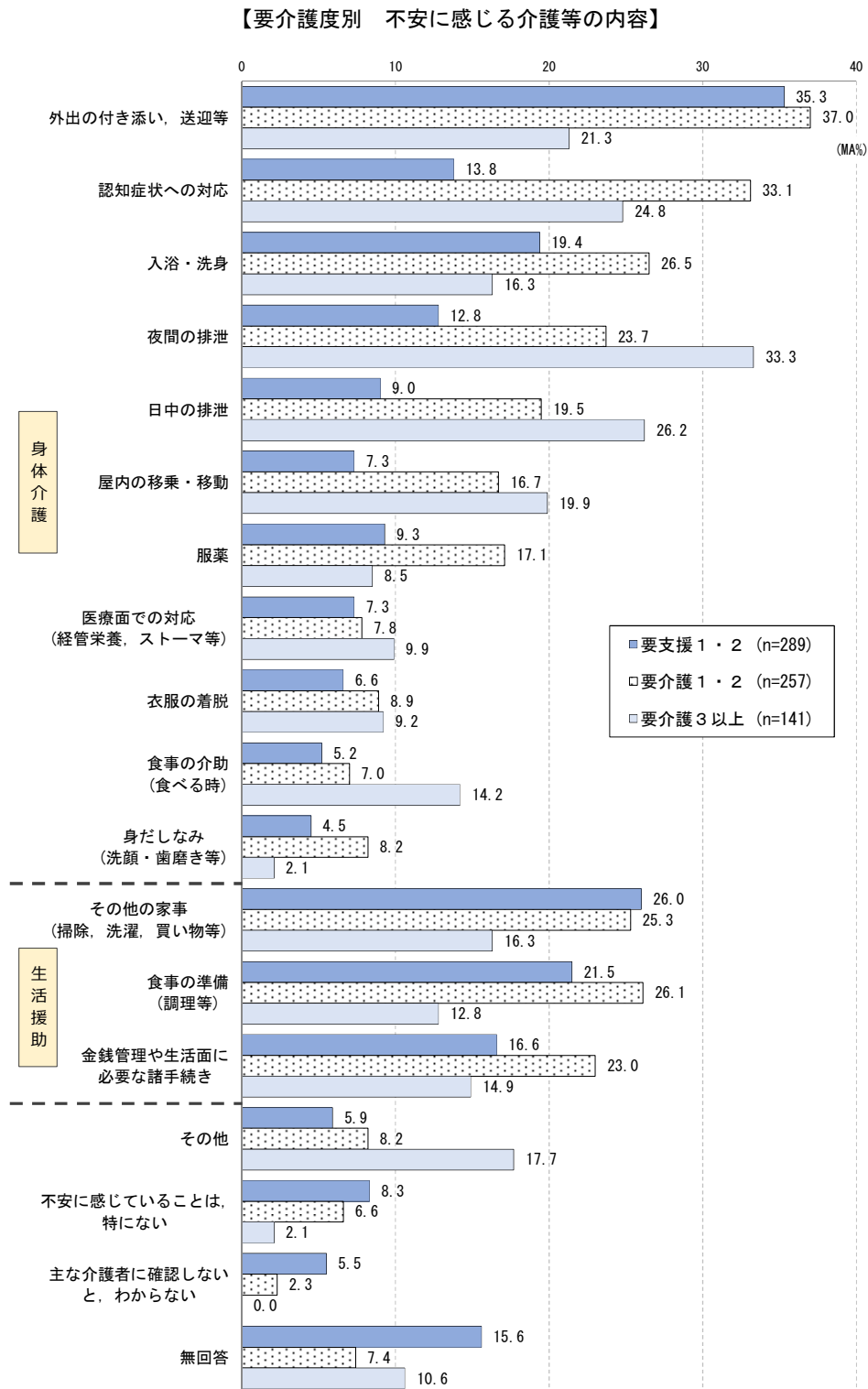
2) 介護等の内容

生活援助に関する内容がいずれも6～7割台と多く、身体介護に関する内容では「外出の付き添い、送迎等」が約7割と多くなっており、前回調査と同じ傾向となっています。



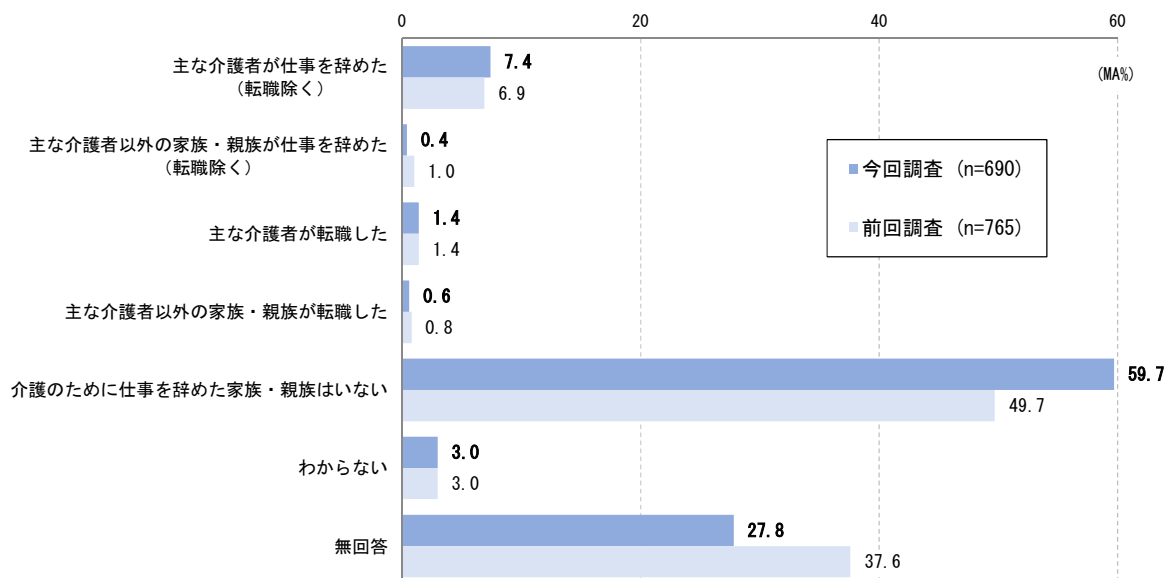
3) 不安に感じる介護等の内容

要介護度別にみると、「外出の付き添い、送迎等」が要支援1・2で35.3%、要介護1・2で37.0%と、ともに最も多くなっており、これに続くのが、要支援1・2では「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」で26.0%、要介護1・2では「認知症状への対応」で33.1%となっています。一方、要介護3以上では「夜間の排泄」が33.3%と最も多く、次いで「日中の排泄」が26.2%となっています。



4) 介護離職の状況

介護のために仕事を辞めた（または転職した）という介護者（「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」「わからない」「無回答」を減算した割合）は、全体の約1割（9.4%）となっており、前回調査（9.7%）と同程度となっています。



5) 在宅生活の継続のために必要と感じる地域での支援

「緊急時の支援体制」が61.4%と最も多く、次いで「少し困った時に手伝ってくれる人」が45.4%となっており、前回調査と同じ傾向となっているものの、ともに5ポイント前後増えています。

